

1) あなたはなぜ、ご子弟に英語を学ばせるのですか？

英語の重要性が叫ばれて非常に長い年月が経ちました。私は、当校に入学を希望されるお子さまのご両親に、毎回この質問をします。「自分がまったく話せないの、話せれば将来、受験や就職に有利だと思ひまして…」「将来、海外へ行っても、世界中に友達ができ、楽しみが増えますから…」「まんとうに漠然としたご回答が多く、なるほどというお返事をいただけることはまずありません。英語を学ばせる目的は、人それぞれでしょうから、これでよいのかも知りませんが、どうしても、私はもっと違ったご意見があってもいいのに、と考えさせられます。

私は、英語というものは単なるコミュニケーションのツールだと考えています。このツールを利用して、本来自分が持てる力でチャンスを切り開き、楽しんで充実した仕事・家庭・人生を全うすることができたら、どんなにすばらしいことでしょう。このような前向きな人が増えてきますと、私たちの社会そのものも、真の意味で豊かになっていくでしょう。

しかし残念ながら、英語を取り巻く環境に関しては、今の日本の社会はこのような状況にはありません。英語ができないという理由で、どんなにすばらしい技術・キャリア・人脈を持っていても、チャンスさえ与えられないことが多くあります。逆に英語しかできない英語屋さんが出世して、会社のトップに上り詰めることは日常のことです。

この間、あるテレビの特集で「早期英語教育は必要ない。まずは母国語である日本語の習得が大切。」というコメンテーターがいました。彼の言いは次のとおりです。「企業で歓迎される人は、仕事ができ英語ができる人。仕事ができない英語屋さんは歓迎されない。」私はこれを聞いて、この人は何もわかっていないと思いました。問題は、世の中にいる多くの私たち日本人は、「仕事には自信があるが、英語はチョット…」というタイプなのです。このような大部分の人たちが、英語しかできない英語屋さんに言葉という壁で負けてしまうのです。お仕事をもちのご父兄の方々の中にも、このような悔しい経験をされた方も多くおられると思います。

英語はあくまでもコミュニケーションのツール。社会的評価は、英語能力ではなく人間そのものに与えられるべきです。

「将来、英語がそれぞれの子どもの夢を実現させるにあたって、有利に働くことはあれ、けっして足かせとならないように自然に身につけさせること」私は、これが早期英語教育の重要な目的のひとつと考えています。

2) インターナショナルスクールで学ぶと、日本語の能力が劣ってきませんか？(よくある質問その1)

この質問は、いつも何組かのご父兄から投げかけられます。しかしよく考えてみてください。ここは日本なのです。子どもたちが1日5時間英語で生活したとしても、土日を含めると2/3以上は母国語である日本語で生活しているのです。

学校を一步出ると、テレビ、ショッピングすべてがあたりまえのごとく日本語なのです。どうして母国語がおかしくなるのでしょうか？ 海外で生活し、現地のインターナショナルスクールに通っているのであれば、日本語能力が乏しくなるといふ不安は大いに否定しますが、日本での早期英語教育では、二ヶ国語を学ぶプラス要因のほうがはるかに大きいと思います。

3) インターナショナルスクールで学ぶと、日本文化や行事を忘れてしまいませんか？(よくある質問その2)

日本にある多くのインターナショナルスクール(プリスクール)は、クリスマスやハロウィンといった外国の行事の他に、ひな祭り・節句・七夕といった日本の伝統行事をバランスよく取り入れています。自国の文化を楽しみながら、異文化を体験するといった環境が提供されているのです。

4) 外国人のお友達を多く持つことは、言語の習得・異文化の理解にとって、たいへん重要なことです

日本人の子どもたちのためのインターナショナルスクール(プリスクール)が多く開校されています。多くの子どもたちに英語や異文化を体験・習得する機会を与えているという点で、これを否定するわけではありません。しかし、最近、私たちがこのような学校からの編入生を受け入れるにあたって疑問に思うことがあります。何人かの子どもたちが外国人の生徒の顔を見ただけで怖くなり、泣き出してしまふことです。

「うちの子どもは、以前の学校で英検3級くらいの力があると言われたのに？」とご両親は首をかしげます。

外国人の先生と決まったフレーズの受け答えしかできないような英語は、受験の英語でしかありません。

私たちが目標としている生きた英語とあまり遠いものです。同世代の子どもたちと、言葉の支障なく遊べるものでなければ、何のための英語なのかわからなくなってしまいます。

5) 体を動かすことは、知育の発達に必要不可欠です

他のインターナショナルスクールを含めて保育園・幼稚園から編入してくる子どもたちに共通しているのは、興味深いことに年齢を問わず体育の種目が苦手ということです。公園や園庭で遊んでいても本当の意味での運動能力は開発されません。専門の指導者のもとで、体系だった指導要綱をベースにして体を動かすことは、健全な心の発達に重要な役割を果たします。4,5歳になっても、トランポリンでジャンプしたり、平均台の上をまっすぐに歩けない子どもたちが増えています。民間のインターナショナルスクール(プリスクール)の多くが、体操場や園庭、プールといった体育施設をもちあわせていない現状に起因するのかもしれませんが、英語(いや英語学)のみでできる頭でっかちの子どもたちが増えるのは、ほんとうに社会の弊害かもしれません。インターナショナルスクールに対する、英語だけというマイナス・イメージができてあがるのも無理がないような気がします。

私のメッセージに最後までお付き合いいただき、ありがとうございます。

当校は小規模で家庭的な学校ではありますが、最上の早期英語および人格形成教育を提供できるよう、教職員一同、日々チャレンジし続けております。そして、近い将来、当校が民間インターナショナルスクールの地位の向上にすこしでも貢献できるようになれば、たいへん光栄なことです。

理事長・学校長